

あわゆき道中

～擬洋風建築を訪ねると、文明開化の音がする～

開催日時：令和2年(2020年)2月9日(日)

受付は9時半～、ツアーは10時出発(約2時間)

角巻、トンビは午後3時までにお返してください。

参加費：1000円(角巻の貸出しと飲み物付き)

マイ角巻、マイトンビの方は500円/中学生以下無料

受付場所：高田小町の蔵(上越市本町6丁目3番4号)

問合せ：きものの小川(025-522-3400)

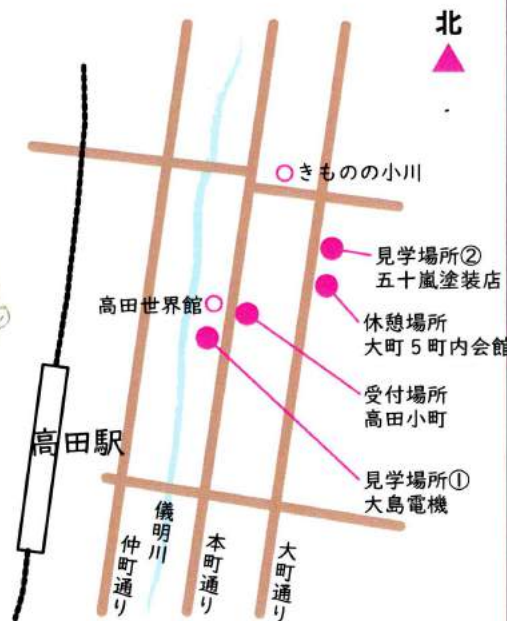


擬洋風建築ってどんな建物なの？
そもそも、「擬洋風」って何？



明治時代の大工さんが、西洋の建物を見よう見まねで設計施工した「西洋風」の建物のことじゃ。高田世界館も擬洋風建築だよ。

ちなみに東京駅は建築家が設計した正式な「西洋様式の建築」で、この時代は、みんなお洒落な西洋の建物に憧れたんだろうなあ。



見学建物①：大島電機

明治38年に建てられた擬洋風建築。もともとは牛鍋などを提供する料理店だった。縦長窓の上部飾りに擬洋風の意匠がみられる。左側の縦長窓は開き窓で右側の縦長窓は上下スライド式となっている。



休憩場所：あさひ会館(大町5丁目町内会館)

もともとはタイピスト学園(タイプライターの学校)として建てられた？と言われている。現在は大町5丁目町内会館として使われ、冬に登場する切干大根と干し柿の町並みはこの会館で作られている。軒下に可愛い擬洋風の飾りが可愛い。



見学建物②：五十嵐塗装店(ぬしや)

塗装店の住宅。店部分の床下には柿渋など昔ながらの塗料が保管されている。大町5丁目のこげ茶系の統一された町並みは、五十嵐塗装店の指導のもと住民主体のワークショップで作られてきた。町内の景観保全発信基地となっている。

